

<https://www.youtube.com/watch?v=u05Q3wu0wJI>

『口論はやめなさい！』よろしいでしょうか。おはようございます、ようこそ。第二礼拝に参加していただき、とても嬉しいです。日曜の午前中は、礼拝が2回あります。第一礼拝は聖書預言のアップデートで、第二礼拝は神の御言葉を一節一節読み解きながらの学習です。今日の聖書箇所は、テモテへの手紙第二、2章14から26節までです。主のみこころならば、2章の最後まで学びます。オンラインでご参加の皆さんは、テモテへの手紙第二、2章をお開き下さい。その間、いくつかお話しておきたいことがあります。まずは、”JDFarag.org”というウェブサイトを更新して立ち上げました。まだの方はぜひご覧になり、よろしければご登録ください。オンラインの方から、なぜ通知が来ないのかと問い合わせがあります。……それは、まだ通知を出していないからです。まだ完成してなくて、作業中です。これからフェーズ II（第二段階）を開始する用意が出来るにつれ、皆さんの忍耐と、もっと大事な事ですが、お祈りに感謝します。また、先週もお願いしましたが、今週も、教会の屋上にあるアンテナに関して お祈りをお願いしたいと思えます。私たちは、リースに関してリース終了後の注意義務に関して、法的にできる限りのことをしました。私たちは、法的に隅々まで抜かりなく対応しました。今はただ、主にゆだね、そのようにお祈りを お願いしているのです。なぜかという、あのアンテナが建物から取り外されるには、本当に奇跡が必要だからです。アンテナの所から雨漏りし、建物が傷んでいるので、修理しないとイケない箇所がたくさんあります。修理を開始できるように、彼らが一刻も早く 新しい設置場所を見つけてアンテナを移設するよう、具体的にお祈りを お願いします。皆さんにお願いしていることは、祈るとき、たとえば 家族で食事をするとき祈る際、ただシンプルに、「主よ、あの建物からアンテナを取り除いてください」と祈ってくださることです。それだけです。神はすべてを知っておられるので、指示するような祈りはしなくていいのです。指示的祈りって、分かりますか？祈りをして、その祈りにどう答えるかを 神様に指示することです。神がご存知じゃないみたい？ ですから、非常にシンプルに、非常に具体的に、彼らが新しい場所を見つけて、建物から アンテナを取り除けるようにお祈りください。では、第二テモテ 2 章、14 節から始めます。可能ならお立ちください。そうでなければ、座ったままで結構です。私が読みますので、ついてきてください。使徒パウロが、聖霊によってテモテ宛てに手紙を書いていて、14 節でこう言っています。

テモテへの手紙第二 2 章

「これらのことを人々に思い起こさせなさい。そして、何の益にもならず、聞いている人々を 滅ぼすことになる、ことばについての論争などを しないように、神の御前で厳かに命じなさい。」 ー14 節ー

「あなたは務めにふさわしいと認められる人として、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じる事のない働き人として、自分を神に 献げるように最善を尽くしなさい。」 ー15 節ー

「俗悪な無駄話を避けなさい。人々はそれによってますます不敬虔になり、」 ー16 節ー

「その人たちの話は悪性の腫れもののように広がります。（あるいは、いくつかの翻訳では、「癌」と表現されています。癌です。）彼らの中に、ヒメナイとピレトがいます。」 ー17 節ー

「彼らは真理から外れてしまい、復活はすでに起こったと言って、ある人たちの信仰をくつがえしています。」 ー18 節ー

「しかし、神の堅固な土台は据えられていて、そこに次のような銘が刻まれています。『主はご自分に属する者を知っておられる。』また、『主の御名を呼ぶ者はみな、不義を離れよ。』」 ー19 節ー

「大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用いられます。」 ー20 節ー

「ですから、だれでもこれらのことから離れて 自分自身をきよめるなら、その人は 尊いことに用いられる器となります。すなわち、聖なるものとされ、主人にとって役に立つもの、あらゆる良い働きに備えられたものとなるのです。」 ー21 節ー

「あなたは若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」 ー22 節ー

「愚かで無知な議論は、…」 すみません。それらは愚かです。(笑)

「...それが争いのもとであることを知っているのですから、避けなさい。」 ー23 節ー

「主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍耐し、」 ー24 節ー

「反対する人たちを柔和に教え導きなさい。神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません。」 ー25 節ー

「悪魔に捕らえられて思いのままにされている人々でも、目を覚まして、その畏を逃れるかもしれません。」 ー26 節ー

すごいですね。ご一緒にお祈り下さい。主よ、感謝します。今日、私たちにお与え下さる御言葉に感謝します。主よ、あなたがここで私たちに見せようとしておられるものへ、聖霊によって、私たちの目を開いてくださり、また聖霊が、教会に語ろうとしておられることを聞けるよう、私たちの耳を開いていただく必要があります。そして主よ、御言葉を受け取り、それに基づいて行動し、注意を払えますように。私たちが、あなたの御言葉をただ聞くだけの者とならず、あなたの御言葉を実行する者となれますように。主よ、私たちは、ためらうことなく認識し、謙虚にあなたに従います。なぜなら、私たちはそれが聖霊によってのみ 可能だと知っているからです。主よ、どうかこれをなさってください。イエスの御名において祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。スクリーンにタイトルが表示されてますね。今日はこの話をしたいと思います。実はそれは本心でなく、本当は話したくないです。しかし、それが必要なんです。私たちには。私たちが口論や喧嘩に明け暮れ、喧嘩好き、論争好きになると、クリスチャンとしての人生に 何が起こり得るのかを語る必要があります。正直に言うと、この聖書箇所は私個人にとって、教える準備をするのに、最も困難なものの一つでした。その理由は、皆さんが想像するものとは違うかもしれません。その理由とは、長年にわたり、神が私の人生にこの分野で 働きかけてくださっていて、正直に言うと、この特定の分野で、私にはすごく罪があると白状せねばなりません。私は論争的になって... 事実、争う機会を探していました。「かかってきな！」もちろん、イエスの名のもとにですが。良い論争の機会があれば、私はそれを逃しませんでした。繰り返しますが、これに関し、主は、私の人生において これまで深い働きをしてくだり、今もなお そうしてくださっています。私がこの事を皆さんに告白しなかったら、よく言っても、私は誠意に欠け、悪く言えば不正直ということになるでしょう。今日の教えについて主に求めている時に、私は、このテーマは現在、これまで

にないくらい重要になっていると感じました。それが思い切った発言であるのは承知していますが、それは事実です。私たちは今、私たちの知っている世界史、人類史の最後の瞬間に生きています。神の民に思い出させるため、さらにもっと重要なことには、神の民に警告するために、パウロがテモテに書いているこのシンプルな真理、これは注意すべき警告なのです。深刻なことです。今、私たちは他に類を見ない時代に生きています。その時は、目前だと思えます。このように言わせてください。「今は人と言争っているような場合ではない。」次のことについて考えてみてください。毎日、死んで、地獄に行く人たちがいます。私たちは、イエス・キリストの教会携挙の寸前に立っています。取り残された人々は、7年間の患難時代に入ります。彼らが7年の患難の中でキリストに人生を捧げれば、それは、彼らの命が犠牲になることとなります。彼らは斬首され、言語に絶する恐怖に直面するでしょう。そうしない人は、永遠に地獄で過ごすこととなります。第一礼拝の預言アップデートでもお話しましたが、神が私の人生でなさっているこの働きのために、私は人々を、救われているか、又は、失われているかの、どちらかとして見るようになりました。それは人々に対する私の思いを大きく変えました。私はもはや、人々をこれ以外の方法で見ることはありません。それが現実であり、真理だからです。だから、私が外出先で誰かに会う時に、私が自らに問わねばならない質問は「彼らは救われているのか？」彼らが救われておらず、そして、救われなかったら、彼らは人類史の最後の7年間で最も恐ろしい、言葉にならない恐怖に突入しようとしているのです。その後、彼らはキリストのいない地獄、キリストのいない永遠に急落するのです。それには、身が引き締められますか？それは、人に対するあなたの見方を変えませんか？あなたはもはや誰かを見て、「ああ、共和党か民主党か？」と言うことはなくなるのでは？ああ、皆さんは笑っていまね。笑ってくださり嬉しいです。だって、それは笑いごとでしょう？左か右か、保守かリベラルか、白人か黒人か？どれだけでも続けられますよ。皆さんだってそうです。それは、まさに敵の思惑通りです。このことは、章の終わりにパウロがとてはっきりと言っています。あなたは、彼らが正気に戻って悔い改めるように祈る必要がある、と。なぜなら、悪魔は彼らを思いのままに、虜にしています。そして、いいですか、彼らは実際に悪魔の意志を実行しているのです。とんでもない事です。この人たちは、クリスチャンなんです。サタンが、自分の目的を実行させるために彼らを捕らえたのです。サタンは何をさせる気だ？ああ～～盗み、殺し、滅ぼす。彼は、私たちに、互いに噛みつき、むさぼり食い、滅ぼし合わせたがっています。サタンの為に、サタンの代わりにです。そして、サタンは特にソーシャルメディア上で、大成功をしています。今起きていることは次のとおりです。ネットでもSNSでも...ところで、それらは大いに困難になってきています。彼らはクリスチャンで、イエス・キリスト信仰を公言している人たちです。この人達は、敵が「彼らは敵だ」と言った人たち...その人たちが敵なのでなく、敵が敵なのですが、彼らは、その人たちを罵っています。よく考える必要があります。キリストの名において、あなたがこのように非難している人たちを、どうやってキリストのもとに導けるのですか？なんと言うことでしょうか。恥ずべき事です。あなたの証しは台無しです。もうチャンスはありません。あなたには、彼らにイエス・キリストを伝えるチャンスは少しもありません。なぜかと言うと、悲しいことに、あなたは救われた人と論争するのに忙しく、失われた人に手を差し伸べることができません。サタンには、これ以上喜ばしいことはありません。二言で言ってもいいですか？「口論はやめなさい。」今日の私たちの御言葉は、この2つの言葉で要約することができます。「口論はやめなさい！」自分が何をしているか、分かっていますか？イエス・キリストの福音に、どんな

ダメージを与えているか気付いてますか？ すこし気を落ち着けます。皆さん、これは重要なことです。私は、反対側、間違った側にいた者として話します。ですから、今日の教えは、本文に基づくだけでなく、経験に基づくものになるでしょう。私は、言わば、これらの事をすべて行い、そのために、その結果に苦しんだ人間として、説教しているのだと思います。私は、そのような結果を七つ見つけました。もしかしたらもっとあるかもしれません。しかし、これらは他の人たちと言い争うことの結果として起こる事です。やはり、これは最後にわかりますので、十分に時間をとっておきたいと思えます。なぜなら、章の終わりにパウロは、いかに悪魔が私たちを捕らえて、彼のためにこれを行わせたがるかについて、非常に明確に話しているからです。これこそがまさに、悪魔が成し遂げようと望んでいることです。ここではクリスチヤンの話をしています。いいですか？ 最初のものは、14節にあります。それは「人々に害を与える」ということです。人を傷つける。ここでパウロはテモテに、争わないようにと、神の民に思い出させるだけでなく、警告することを勧めています。興味深いことに、皆さんが14節で気づかれたかどうか分かりませんが、どうやら彼らはすべての事について、誰とでも口論していたようなのです。言葉の一つ一つに。「違うのか？」と、ここで論争になります。私には、お話しする事があります。言っちゃいましょう。そう言ったからには、なおさら話さないよね。私たちはYouTubeに、預言アップデートのタイトルと、聖書の学びの箇所とタイトルを、ソーシャルメディアで事前に投稿しています。通常は、前日なので土曜日です。私たちには、素晴らしいメディア担当チームがあり、彼らがそれを投稿します。今日の学びのタイトル、「口論はやめなさい」それから、聖書箇所。『口論はやめなさい』という学びのタイトルについて、ある人が、非常に論争的なコメントを投稿してきました。信じられますか？ 喧嘩腰に吹っ掛けてきたコメントが、どんなものだったか知りたいですか？「福音を擁護する議論をしてはいけないというのか？」 あ〜神様！マジですか！ 一言一句！ ますます酷くなっています。悪化しています。新しいウェブサイトですが、私たちは祈って、このサイトの中に、フォーラム、つまり、ディスカッションが出来る場を作ることに決めました。本土のソーシャルメディア担当者は、「やれやれ、これは我々が望んでいたものではない」と気づきました。フォーラムに参加した人の数だけでもすごくて... それから、ソーシャルメディアチームに、自分のアカウントを削除したいとの依頼がくるんです。と言うのも... これはとても胸が痛んで、実はちょっと深刻なことなんです...ものすごく精神的にショックを受けた女性がいました。なぜなら、いわゆる「クリスチヤン」が、このフォーラムで、彼女を罵り、彼女の救いを疑問視したからです。私の理解では、彼女は、「地獄で焼かれるぞ」というような事まで言われていました。なんて?? パウロが言うには、議論には価値がないだけでなく... つまり、それで何を成し遂げるのか？ ここで質問です。この質問について真摯に考えてください。私と一緒に考えてみてください。あなたは、誰かと論争した結果としてその人を御国に入れたことがありますか？ いや、マジな話。あなたは福音を分かち合い、誰かに証しをしている。あなたは彼らに向かって怒鳴ったり、怒鳴り返したり、そしてついにドカン！彼らは気付きます。「ああ、あなたの言う通りだ。」 「... 救われるためには何をすればいいのか？」 私にはそんなことが起こったことはありません。皆さんは？ あるとは思いません。ローマ人への手紙2章4節について考えてみましょう。今思いつきました。聖霊だと思います。神の優しさが人を悔い改めに導くのです。神の優しさです。パウロが言うには、まず第一に、それは何の価値もない。それは全く何も成し遂げません。その上に、それは関わる者を損ない、害し、傷つけ、壊してしまうのです。15節の2つ目、それは、「恥をもたらす」

パウロが「自分を神に献げる」と言う際に言っているのは、あなたが神の言葉をまっすぐに説き明かすならば、恥じることはないと言っています。いくつかの翻訳では、「真理の言葉を正しく分割する」と表現されています。私はその方が良い訳だと思えます。こう考えてみて下さい。正しく分割するというのは、均等に正しく分割するということです。こちら側と、こちら側に、同じように均等に分けるということですね。不均衡でもなく、一方的でもない。よく聞いてください。ですから、神の言葉を正しく分割して、正しく扱う（まっすぐに説き明かす）なら、神の言葉を正しく分割していない事で恥をかいたり、非難されたりすることはありません。神の言葉を正しく分けることは、神の言葉をバランスよく理解することです。ここでも、パウロが聖霊に感化されて書いたこの時期、彼らは全ての事に反論していたようです。「携挙はすでに起こった。」パウロが、テサロニケの教会に書いたのと似ています。「携挙はすでに起こった。」だからパウロは、二通目の手紙を書かねばならなかったのです。「携挙は、まだ起きていない。」と。今日お話しましたが、第二テサロニケ2章で、パウロからのものだとした、偽の手紙が出回っていました。その内容は、「あなたは携挙を逃した。あなたは患難に入っている。良い午後を。アロハ！」テサロニケの信徒たちは、「まさか！」とパニックしています。パウロは知らせを受けて、テサロニケの信徒への第二の手紙を書いて、「あなたがたは携挙を逃してはいない」と言っています。誰がそんなことを言ったのか？と。そのために生じたダメージを見て下さい。すべては、彼らが、真理の言葉を正しく分割しなかったからですもう少し後で、もっと見ます。3番目です。「癌のように広がる」これは16節から18節にあります。これは恐らく、口論に伴う、最も破壊的な結果の一つです。パウロが、それを癌や、ついでに言えば、悪性の腫れものにまで例えるなんて...それは転移するんですね。癌が全身に広がるのと同じように、キリストの体もそうになってしまうのです。それは癌のように広がります。そのため、最終的に、それは良くても真理からの離脱、最悪の場合、人々の信仰の破壊につながります。あなたが議論した挙句に、誰かを御国に入れたことがないであろう事と同じように、私たちは議論した挙句に、誰かを御国から追い出したことがないでしょうか？それがパウロがここで言っていることです。癌は体全体に広がると、死に至らせませんか？それはゲームオーバーです。闘争的な精神も、論争好き、喧嘩好きなクリスチャンもそうです。それは、癌のように広がり得ます。4番目。19節、「混乱につながる」これはいくつかの理由から興味深いことですが、その中でも特に重要なのは、パウロがテモテに、何があっても、（これは重要なことです、どうか聞いてください）、神の言葉はしっかりと立っているということを思い出させていることです。私がこの手紙を受け取る側において、その手紙には「携挙はすでに起こった、あなたは患難に入っている」と書かれています。待って、待って、ちょっと待って！あなたは私を混乱させている。待って。あなたは真理の言葉を正しく分割していない。もしそうしているなら、あなたはしっかりと立っているはずだ。なぜしっかりと立てるのか？それは、神の言葉が最終決定をする言葉だからです。あなたはその上に堅く立つことができます。何にも動かされることはありません。そこでこの偽りの教えが来て、それが癌のように広がって混乱を引き起こしています。そして、あなたはこんな感じです。今の、悪いですか？高慢にしたいはありませんが、それは聖化された自信なんです。「いえいえ、私は、神の言葉が何と言っているかを知っています。」「私は、神の言葉を正しく分割しました。」「あなたは混乱の種を蒔いています。」「あなたは、論争を始めています。」と。ここで、これは識別力と一緒に組み合わせられています。霊を見分けること、霊をためすことです。クリスチャンの生活の中では、こんな感じです。誰かが来て、聖書をもてあそび、混乱を広げ

始める。そこにあなたの識別力が来て、あなたは「神の言葉はこう言っている」と言えます。「私はあなたに動かされたりしない。あなたは私を惑わせることはできない。私を動かすことはできない。私を混乱させることはできない。混乱してるのはあなただ。あなたの混乱を解いてあげたい。私はイエスの名において、あなたに按手したい。」いや、いや、そんなことはしないでくださいね。口論や争いは、しばしば混乱を招くことがあります。私たちは教義的にしっかりしていれば、動かされたり、揺さぶられたりする必要はありません。ところで、私は再び持ち出しますが... 大患難前の携挙という健全な教義に関しては、これは本当に真実です。これは面白いです。預言アップデートで話をしましたが、第二テサロニケ人への手紙で、パウロはテサロニケの人たちに非常に明確に語っています。「あなた方が携挙を逃し、患難時代にいるというこの偽造された手紙のせいで、あなたたちが不安に陥っていることは分かっている。あなたがたが驚き恐れているのは分かっている。心騒がせてはいけません。心配してはいけません。あなたは神の言葉にしっかりと立つ必要があります。」ここでまた、それがどのように機能するかと言うと、私は世界で起こっているすべての事を見ていて、こう考えます。「ああ、なんていうことだ!」「もしかしたら、私たちは患難時代にいるのかも。神の言葉を正しく分割していなかったのかもしれない。私が間違っているのかも。」そうではありません。そうになると、あなたは行ったり来たり、上下に揺れ動かされ、不安定になります。神は、あなたが不安定になることを望んでおられません。神は、あなたが動かされず、彼の言葉にしっかりと立つことを望んでおられます。そこで、教義の波、教義の風がやって来ます。ああ、風をありがとう。少し暖かくなってきたのでちょっとした貿易風もいいですね。しかし、あなたがもし、しっかりと、動かされず、堅く立っていないなら、それはあなたを吹き飛ばし、吹き倒し、あなたを動かし、あなたは不安定になってしまいます。行ったり来たり、「もう分からない...!」と…。止めてください! 5つ目です。これは重要です。他のもそう言いましたっけ? まあ、これはホントに大事です。それは、「神が私を用いることを邪魔します。」神にとって役立つ道具に関して、パウロがここ、20節と21節で述べていることの重要性を誇張することが可能かはわかりません。それはほとんど、補足的な感じですか。彼は、神の民に警告し、神の民に口論や喧嘩について思い起こさせる事について話しています。主のしもべが論争してはいけない、と。それから彼は、突然、「家にはこれらの器がある」と話し始めます。「パウロ、待って、待ってくれよ。何を言おうとしてるんだ? 待ってくれ。」いやいや、聞いてください。こちらには、金や銀、高価な、特別な器があります。そしてこちらには、木や竹の器があります。それは一般的に使われているものです。でも、特別な時であれば、高級な銀食器や陶器、特別な金のものを引っ張り出してきます。パウロはこう言っているのです。あなたがこれに夢中になっている時には、私は、あなたをその特別な目的のために用いることができない。私があなたを器として用いたいと願っている働きのために。あなたには傷があるから。皆さんは冒流という言葉の意味を知っていますか? その言葉を聞くと、「淫らな」「汚い」「下品」といったことを考えます。確かにそうだと思いますが、実際の「冒流」という言葉の意味は、「一般的にする」ことです。イエス・キリストの名を冒流するとは、この御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていない、イエス・キリストの名を貶め、それを一般的なものにすることです。それが冒流です。神は、ご自分の特別な目的のために、ご自分の特別な働きをするための、汚されておらず、冒流されていない器を使いたいと願っておられます。私はこんな風に考えています。これは私の考え方です。

しかし、私は神をこのように思い描きます。 彼にはこの計画があれ神は、この使命を持っておられ、主の目は地上をくまなく見渡し、神に完全に捧げられた心、器を探しておられますそして、その人を見つけると、「わお！さあ、わたしのすることを見ていなさい。」そして神は、彼らのために力強く働かれます。神は壮大で栄光に満ちたことをなさいます。神にはそれが出来るからです。なので、ここに主の目があり、ここに私があります。神は見渡して、世界中を探り、そしてハワイ諸島に来ます。オアフ島の風上側に来て、彼はこう言います。「ああ、わたしは用いたかったが、出来ない。わたしは、彼をこのために用いることは出来ない。」「ああ、できれば良いのだが…！」「できる時が来るのかもしれないが、彼があんな状態では用いることは出来ない。」「わたしには争わないしもべが必要だ。わたしには特別な使命があり、そのために誰かを遣わさねばならないから。それには親切さ、優しさ、柔和さ、そして忍耐が必要だ。」ああ、忍耐…！「彼には忍耐がなく、愛がなく、優しさが無い。彼は優しいどころか厳しい。わたしは、彼を使えない。」22節から24節の6つ目は、「未熟さを露呈する」ということです。私がこのような言葉を選んだのには理由があります。すぐに理由がわかると思います。しかし、ここでパウロが主張している点は、最初に読んだときには簡単に見逃してしまうかもしれません。それは若い人たちに関係していることだからです。若いうちはそういう傾向が強いというのが事実であると思いませんか？ 私は確信しています。また私自身の話をしますが、経験から私に言えるのは、若い時はもっと元気がありますよね。年を取っていくと、…ある日、妻と私は話していて、私たちがもうあんまり言い争わないことに、思いふけていました。もちろん、私は靈的に誇り高き信仰者ですから、それを靈的な成熟のせいにはしました。まあ、私たちはすごく敬虔だから。すると聖霊は、「本当に？」と語られます。「本当に、そう思っているのですか？」「いいえ、それはあなた達が敬虔だからではない。あなたが疲れ果てているからだ。」あなたはこの問題を見て、考えて、自問します。「それには価値があるのか？」「いいや。放っておこう。」もっと若い時なら、「おお、そうかい？私が？お前はどうかだ？！自分のことを棚に上げて！」どンドン続きます。まあ、身体的、靈的な未成熟さについては語るべきことはありますが、しかし、問題はこれです。若い時の方が、くだらない…、何度も言って申し訳ありませんが…、「愚かな」議論に引き込まれやすいのです。あなたが年をとって、願わくは賢くなり、知恵がつくと、気づきます。「いや、それは愚かなことだ」「それじゃあ何も達成できない。」と。「それは台無しにし、害を及ぼし、傷みを与え、傷つくことになる。」「それには価値がない。」あなたが若く、こうしがちである時、それはあなたが未熟な証拠だと思えますさて、靈的な意味での話をしましょう。それは真理の言葉を正しく分割することに戻ります。あなたが陥る口論の多くについて、それが夫婦間のものであれ、親として子どもとのものであれ、仕事上の同僚とのものであれ、人生のあらゆる分野で通用することですが、これを考えてみてください。あなたの口論の多くは、あなたの靈的な未熟さの証拠であるかもしれないのでは？ 私は、へブル人への手紙の筆者について考えます。私はそれが好きではありませんが、それは真理です。へブル人への手紙の筆者は、やはり、非常にはっきりと書いています。つまり、それは厳しい叱責です。「君たちはまだ乳を飲んでいる！」「あなた達はもう、神の言葉を教えているべきなのに、全く成熟していない！」「あなた方は歯が生えてなく、堅いものを扱うことができないあなたはまだ、乳を必要としている。」（へブル人への手紙5章12節 参照）それは靈的な未熟さです。敢えて言うならば、私たちの議論の多くは、単に、私たちの靈的な未熟さが原因だと言わせて頂きます。私が聞いたことがあることで、それが本当に真実であると信じていて、こう

言えるのであれば、痛々しいほどに真実なことです。霊的成熟度の最高点は、あなたが同意できないという事実に、快く同意することが出来るようになることです。それが霊的な成熟です。霊的な成熟。さて、この25節から26節にある最後のものは、私がもっと時間をかけたいものです。「それは畏となる」畏、トラップ それは悪魔の畏です。まるでパウロが、一番悪いものを最後までとっておいているような感じです。一番良いものを最後に...ではなくて、最悪のものを最後にとってあります。これ以上悪くなることはあり得ないと思っていたが、そうってしまった。事態がこれ以上悪くなりえない時、パウロはここで、こんな事を言ってくれるんですね。考えてみてください。ここは、真理の言葉を正しく分割することが大事になるところです。新生したクリスチャンは、悪魔に取り付かれることはありません。いいですね？それは不可能です。それは不可能です。繰り返しますが、だからこそ、もしあなたが教義的に不安定で、しっかりと立っていないなら、クリスチャンから悪霊を追い出している解放のミニストリーのことなどを耳にします。それは真実ではありません。もしその人の中に実際の悪霊がいて、それらが追い出されているのなら、その人達はクリスチャンではありません。クリスチャンであり得ません。聖霊に満たされ、聖霊によって封印され、聖霊が内在しているクリスチャンに悪霊が宿ることは出来ません。それは不可能です。私がそのことに言及し、それを強調するのは、パウロが、クリスチャンについてこのようなことを言うというのは、クリスチャンが悪霊に憑りつかれることはあり得ないが、クリスチャンは悪霊に抑圧されることがあるのを示しているように見えるからです。説明させてください。サタンはクリスチャンをとらえ、クリスチャンの人生に拠点を築くことができます。サタンは、彼らを巧みに操り、配置し、さらには、自分が彼らにさせたい事をやらせてしまうのです。サタンは彼らに何をさせたいのか？ ああ、不和の種を蒔くことです。不和をまくこと。多くのミニストリー、多くの教会、そしてさらに言えば、多くの結婚や家族までもが、内部から破壊されています。地獄の門は、教会に対して、その外側からは打ち勝つことはできません。しかし、内側からは出来ます。サタンは、それを知っています。彼はあなたに、それを知られたくありません。私は旧約聖書のイスラエル人について考えます。実際に、新約聖書の中で、それについて言及されています。それは、バラムの教義と呼ばれました。はい、興味深いです。それは何のことですか？ それはよりもよって「民数記」にあります。民数記に？本当に？ それは退屈な書ではありませんか？ 一全然！ 民数記は、何について書かれているのですか？ 一まあ、数字です。それはとても魅力的です。こういう話です。イスラエル人の数は増え、敵国に脅威を与えていました。だから、イスラエル人の敵は、イスラエル人を呪い、破壊するために準備しました。どうやってやるのか？ さて、バラクという名の男がいます。（民数記22章参照）この話をご存じですか？彼は、バラムという名の男を雇います。バラムは、ロバを所有しています。このロバのことをご存知ですか？ ちなみにこのロバは、特別なロバです。どうやらバラムは預言者で、呪いや祝福を宣言でき、彼が呪いや祝福を宣言した者には、誰でも、呪いや祝福が降りかかるのです。バラクはこう言います。「私はあなたに大金を払おう。私はあなたにイスラエル人を呪ってもらわねばならない。」そしてバラムはこう言います。「良いですよ。いくらですか？ どこにサインすればいい？」そして、彼はやります。それで彼は、ロバに乗って出発します…私はこれが大好きです。ところで、これは実話に基づいた物語ではありません。これは実際に起こったことです。ロバが実際に、バラムに話しかけたのです。ラクダにとまったハエになって、それを見たかっと思いませんか？ ロバが、バラムに話しかけた事よりも彼が、ロバに語り返したのがびっくりです。彼は、ロバと口論しているのです！...とにかく、ロバ

は彼に何と言いますか？「そんなこと考えることすらするな。何をしているんだ？止まれ！」それでも、彼はとにかく、まい進します。そこで、ここで彼は今、準備をしています。彼には、イスラエルの宿営が見えます。民数記と呼ばれる聖書の中の退屈な書によると、彼らは大勢で宿営をはっています。そして、彼が呪いを宣言しようとする、彼の口から何が出てくるでしょう？なんと、ただの祝福ではありません。ああ、それはとても美しい祝福です。そしてバラクは、「おい、これはどういうことだ？私は祝福するためでなく、呪わせるために金を払ったのに。」バラムは、「何が起こったのかわからない。やろうとしているんだが。もう一度やってみる。」彼は再びやってみますが、それはさらにもっと美しい祝福なのです。バラクは非常に苛立ち、こう言います。「よし、こうしよう。より高い見晴らしの良い場所、より高い頂上へ行こう。」それは、あの異教文化の中にあつた考えで、ある特定の地域や領土にいれば、霊をもっと支配できるというものです。これは実際には、現在、別の偽りの教えに根付いています。”領域を支配する霊”聖書のどこにもこのようなことは書かれていません。それは聖書的ではありません。神の言葉を正しく分割しましょう。すみません、ちょっと急いでお話しします。”祈りの歩行”のことですけど、「私たちは祈りの歩行をするのだ。」私は、「おお、それはどこに書いてあるの？使徒の働き「パウロはリストラを中心に、祈りの歩行をした。」いいえ。聖書のどこにそんなことが書いてありますか？「我々は領域の霊に対して、権威と支配権を持たねばならない！」それは聖書的ではありません。それは異教です。御言葉を知ってください。御言葉を正しく理解してください。そこで彼は、バラムをこの高い山の頂上に連れて行き、案の定、彼はイスラエルの民を呪おうとします。すると、なんと、さらに輝かしい祝福が口から出てくるのです。ついにバラクは、我慢できなくなって、「お前はクビだ。」彼が給料をもらったかどうかは分かりません。民数記の中には書かれていません。しかし、非常に興味深いのは、黙示録の7つの教会への手紙の中に、バラムの教義について書かれていることです。バラムの教義とは何だったのでしょか？彼は、イスラエル人を呪って外から滅ぼすことはできませんでしたが彼がしたのは、モアブ人の女たちにイスラエル人の男たちを誘惑させて、内から滅ぼすことでした。皆さん、彼がその高い山の頂上から、彼らを呪うことができなかつた理由を知っていますか？それは民数記6章です。そこに全ての数字のリストがあります。12の部族、4つの宿営、それぞれ3つの部族が東、西、北、南にいます。正確な数字が記録されているんです。北と南はだいたい同じ数で、西はそんなにありませんが、東はもっと多いのです。そして、そのように十字架の形に編成された宿営のど真ん中にその幕屋がありました。ローマの十字架刑がまだ考え出されてもなかつた頃に。その十字架のために、呪う事ができなかつたのです。なぜなら、キリストであるイエスが罪の呪いをご自身に受けてくださったから。

「こういうわけで、今や、キリスト・イエスに ある者が罪に定められることは決してありません。」
(ローマ8:1)

呪いはありません。呪うことはできないし、外側から破壊することはできません。しかし、内側からは確かにできます。繰り返しますが、サタンは、私たちにそれを知られたくはありません。それで、彼は何をするのか？彼は潜入します。彼は、外側から教会を攻撃しません。教会の中に加わるのです。隣に座っている人を見ないでください。(笑)彼は教会の中において、内側から、不和の種を蒔き、分裂させます。典型的です。内側から分裂させ、征服します。そうやって彼は、破壊しようとしています。そうやって彼は、教会を破壊するのです。そうやって、牧師を破壊するのです。そうやって彼

は、結婚を壊し、家族を壊すのです。「箴言」の6章で締めくくりたいと思います。16節から19節を読みしたいと思います。

「主の憎むものが六つある。いや、主ご自身が忌み嫌うものが七つある。」（そのリストが17節にあります。）「高ぶる目、偽りの舌、咎なき者の血を流す手、邪悪な計画をめぐらす心、悪へと急ぎ走る足、」19節が、「まやかしを吹聴する偽りの証人、…」

なぜ一旦止まったかと言えば、これはソーシャルメディアで、特にYouTubeでは非常に困ったことになっているからです。クリスチャンでも、牧師でも、YouTuberでも、それがどういう人達であれ、彼らはキリストにある兄弟を悪意を持って攻撃しています。そしてそれだけでも悪いのに、彼らは、彼らのことを不当に非難しているのです。神はそれを憎みます。神はそれを憎まれます。間違えないでください。神はそのことに気付かれます。あなたは偽りの証言をしているのです。あなたは偽りの告発をしている。ところで、私たちは、二人以上の証人の立会いなしに、長老や、キリストにある兄弟、姉妹に対する非難を扱うことは決してありません。もしそうするなら、それはあなたの責任です。だから、誰かがあなたのところに来て、「あのこと聞いた?! コシヨ コシヨ コシヨ」—「…え?! 聞いてないわ。」そして、あなたは誰それに電話やメールをして、ああ、あなたはいつもとても霊的で気高い方法でそれを行います。「ねえ、私たち、誰々のために祈る必要があるわ。聞いた?!」—「何を?!」「ああ、彼らのために祈らないと! ほんとに?」彼ら自身に電話したらどうですか? 彼ら自身と一緒に祈ったら? 彼らについての噂話をしたり、彼らについてのデマを広めないでください。彼らのために祈るのです。もっと良いのは、彼らと一緒に祈ることです! 私は本土で長年にわたってこれを直接目撃したと言わねばなりません。私はこれが人々の人生を破壊するのを見てきました。—偽りの告発。それから、次に7つ目がありますが、6つは、神が憎むものだと見ることもできます。しかし、7番目のものは、神はこれを憎んでいるだけではありません。これは「忌み嫌う」ものです。おお!それは何ですか?「兄弟の間に争いを引き起こす者。」それは忌み嫌われることです。「なぜか?」と尋ねる必要があると思います。神の御言葉の中には、私たちが「なぜ」という質問をしたら良いと思う箇所があります。「なぜ、主よ、聖霊が書き手を促し、これを聖書のページに載せる必要があると思われたのでしょうか?なぜこれが私の聖書の中にあるのですか?」「なぜ私は、これを知る必要があるのですか?」「その背後にある理由は何ですか?」私たちは、神が何を嫌っているかを知っています。私たちは主にとって、何が忌み嫌うものかを知っています。でも、どうして?兄弟の間に不和をまくことは、なぜ主にとって、忌み嫌うべきものなののでしょうか?その理由はここにあります。なぜなら、天で、ルシファーによってこれを最初に受けたのが、神だったからです。ルシファーは、自らを高みに上げて、「私はいと高き者の上に、私の王座を設けよう」と宣言したとき、天に不和と分裂の種を蒔きました。ところで、今日の預言アップデートで言いましたが、サタンが何よりも求めているものが何か知っていますか?私たちの礼拝です。だからこそ、サタンの化身である反キリスト自身は、礼拝を要求するのです。それで、サタンは天から追い出され、彼は御使いたちを分裂させました。御使いの三分之一を。言ってみれば、最初の教会分裂です。内部から。サタンは盗み、殺し、滅ぼそうとしています。これが彼のやり方であり、これが主にとって、忌み嫌うべきことである理由です。最後にもう一つ。イエスは、「神は離婚を憎む」と仰いましたね?これについて、少しお話ししましょう。「なぜか?」と尋ねてみましょう。私たちは、神が離婚を憎まれていることは知っています。では、どうしてか?なぜ神は、離婚を嫌われるのでしょうか?答え:

離婚が、離婚した人に及ぼす影響のゆえに、神は離婚を憎まれるのです。もう一度言わせてください。言葉の遊びではありません。神が離婚を憎まれる理由は、それが結婚、夫、妻、子どもたちに及ぼす影響のためです。それは壊滅的です。だから神はそれを嫌われるのです。さらに、神は結婚が象徴するもののために離婚を憎みます。結婚は何を表していますか？結婚は、イエス・キリストと私たちの関係の縮図です。あなたは婚約していることをご存じでしたか？結婚する約束をしていると？一はい。花婿は誰ですか？一イエスです。花嫁は誰ですか？一私たちが花嫁です。私たちは婚約中で、結婚式の日取りが決まっています。ああ、それはいつですか？一わかりません。招待状は送れません。もし送るならこんな感じでしょう。日程：誰も知らない。時刻：誰も知らない。時：準備をしない。そうでしょ？そのラッパが鳴るとき、キリストにある死者がまず先に肉体的によみがえり、生きている私たちは空中で主と会うために引き上げられます。（1テサロニケ4：16-17）

イエスは私たちのために御父の家に用意してくださった場所、つまり婚礼の部屋に、私たちを連れて行ってくださるのです。私たちが木曜の夜に、「雅歌」で学んでいる通りです。主は私たちのために用意してくださった場所に私たちを連れて行ってくださるのです。そうでなければ、彼は私たちに言わなかったでしょう。「わたしがいるところに、あなた方もいるためです。」と。（ヨハネの福音書14章参照）おお、私たちは何をしますか？私たちは、小羊との結婚を完了させ、7年間祝うこととなります。ある人が賢く言っていたように「世界が患難してる間、私たちは祝ってる。」7年が終わると、どうなるか知っていますか？完全数である7、それが完了した時に？花嫁と花婿が、婚礼の部屋から出て来て、盛大な結婚式の祝宴、子羊の婚礼の祝宴が行われます。なぜなら、私たちは今や、結婚しているからです。彼はもはや、私たちの花婿ではありません。彼は、私たちの夫です。これが、サタンが結婚を嫌う理由です。だからこそ、彼は特にクリスチャンの結婚を、悪意を持って憎むのです。それが象徴するもののゆえに。お立ちください。祈りで閉じましょう。

主よ、私は最善を尽くしました。ここからは、あなたにしかできない方法で、いつものように、聖霊によって導いてください。主よ、つらいかもしれませんが、私たちのクリスチャン生活の中でそれを現実のものにするために、その過程を始めさせてください。良い意味で、罪を示された者、非難された者ではなく、罪を示された者のために、主よ、あなたが赦してくださることを感謝します。あなたの恵みは十分であり、あなたは私たちを、責められないことに感謝します。これが完全に支払われており、毎日が新しい始まりとなれることに感謝します。あなたの憐みは、朝毎に新しいのです。主よ、この罪に値する報いを 私たちに受けさせないでください。主よ、私たちを憐れんでください。このために、私たちが他人の人生にダメージを与えてしまったことをお許しください。主よ、確かに強い言葉、厳しい言葉ですが、良い言葉をありがとうございます。主よ、あなたの御言葉に感謝します。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7